

## 平成29年度 1年H組 大島研修

平成29年5月10日～12日の2泊3日の日程で、1年理数科の大島研修が行われました。

初日は、小雨まじりの中、火山博物館、砂防ダム、噴火口にて**生物、地学の研修**を行いました。夜の研修は、6班のうち3班の**研修発表**を行いました。

2日目は、気温が上がったものの、風が強く体感的には研修に適した環境でした。三原山に登る行程のなかで、**植物、溶岩等の観察**を行いました。夜の研修は、残りの3班が研修発表を行いました。

3日目は、笠松海岸、筆島海岸、千波地層切断面、陰樹の森等で**生物、地学の研修**を行いました。3日間の研修続きの日程でしたが、全員が熱心に参加し、とても充実した研修となりました。

### 5月10日（水）1日目

#### ○火山博物館前



噴火口1日目火山博物館前で火山弾や溶岩樹形の展示を観察し、どうしてこんな形のものができたのか、考察をしています。また、博物館の中で展示を見学し、大島の噴火の歴史を学習しました。

#### ○砂防ダム



火山博物館前で火山弾や溶岩樹形の展示を観察し、どうしてこんな形のものができたのか、考察をしています。また、博物館の中で展示を見学し、大島の噴火の歴史を学習しました。

#### ○噴火口



1986年におきた割れ目噴火口と噴出したスコリアを観察し、スコリアの成因や色が違う原因の考察など、噴火時の様子を知るための手法を学びました。

#### ○研修発表の風景



1日目に行った研修をまとめ、発表を行いました。

## 5月11日(木) 2日目

### ○三原山をバックに



三原山を望める場所にて、溶岩流の跡や周囲の地形と地質図とを見比べ今日の研修のルート確認とロケーションチェックを行いました。

### ○三原山の火口



三原山の火口を観察しました。過去の噴火によって火口周辺が破壊されているので、火口周辺の壁の構造とそこに残された溶岩の後から過去の噴火の様子を探ることができます。

## 5月12日(金) 3日目

### ○笠松海岸



溶岩が冷やされてできた柱状節理の観察を行いました。また、海岸に生える植物を観察し、海岸地域での植生と昨日までに観察した陸域での植生の違いについて考察を行いました。

### ○アア溶岩流の観察



アア溶岩流の上で溶岩の観察とイタドリ種の観察を行いました。ごつごつしたアア溶岩の中に抄出した鉱物と共に、植物が入っていく初期の段階を観察できます。

### ○研究発表の風景(2日目)



2日目に行った研修をまとめ、発表を行いました。1日目に行った発表よりも、自分たちなりの考察が増え、成長が感じられる発表となりました。

### ○筆島海岸



筆島を眺望し、海岸にぽつんと残る筆島の成因を考えます。周囲の地層や地形の浸食の様子も観察し、考察を行いました。

○千波地層切断面にて



地層の切断面を観察し、地層の形成原因を観察しました。一見、褶曲に見える構造ですがこれが褶曲でないことを示す証拠を探して論理的な説明ができるよう考えました。

○陰樹の森



薬師堂にて、植生の十分に回復した極相林を観察しました。今まで観察したものと違い大きな陰樹で構成された場所です。3日間を通して荒れた土地に植物が繁栄していく過程を見ることができました。